授業概要（シラバス）

＜作業療法学科 ３学年＞

２０２４年度

学校法人　君津あすなろ学園

千葉医療福祉専門学校

２０２４年度　作業療法学科　開講科目一覧

１学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	心理学	通年	2	60
	情報コミュニケーション学Ⅰ	前期	1	30
	情報コミュニケーション学Ⅱ	後期	1	30
	情報コミュニケーション学Ⅲ	前期	1	15
	基礎数理学	通年	2	30
	健康と身体	通年	1	30
	社会福祉概論	後期	1	30
	医学用語	通年	1	30
	公衆衛生学	後期	1	15
	総合演習Ⅰ	通年	1	30
専門基礎分野	人体の構造Ⅰ	前期	1	30
	人体の構造Ⅱ	後期	1	30
	人体の構造Ⅲ	前期	1	30
	人体の構造Ⅳ	後期	1	30
	人体の機能Ⅰ	前期	1	30
	人体の機能Ⅱ	後期	1	30
	運動学Ⅰ	後期	1	30
	リハビリテーション医学Ⅰ	後期	2	30
	病理学	後期	1	15
	救急救命法	通年	1	30
	リハビリテーション概論Ⅰ	通年	2	60
専門分野	作業療法概論	通年	2	60
	基礎作業学	通年	2	60
	地域リハビリテーション	後期	1	15
	職業リハビリテーション	通年	1	15
	見学実習	通年	1	45
	26科目		32	単位

２学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	人間発達学	前期	1	30
	総合演習Ⅱ	通年	1	30
専門基礎分野	人体の構造実習	通年	1	30
	人体の機能実習	前期	1	30
	運動学Ⅱ	前期	1	30
	運動学Ⅲ	後期	1	30
	運動学実習	後期	1	30
	運動生理学	前期	1	15
	リハビリテーション医学Ⅱ	後期	1	15
	内科学	通年	2	60
	運動器病態学	通年	2	60
	臨床神経学	前期	2	60
	精神医学	通年	2	60
	臨床心理学	前期	1	30
	リハビリテーション概論Ⅱ	通年	2	60
専門分野	作業療法評価学Ⅰ	前期	1	30
	作業療法評価学Ⅱ	後期	1	30
	作業療法評価学Ⅲ	後期	1	30
	作業療法評価学Ⅳ	前期	1	15
	作業療法評価学実習Ⅰ	前期	1	30
	作業療法評価学実習Ⅱ	後期	1	30
	作業療法評価学実習Ⅲ	後期	1	30
	発達領域作業療法学Ⅰ	前期	1	20
	日常生活関連活動学	通年	3	60
	生活支援環境学	後期	1	15
	地域リハビリテーション実習	後期	1	45
その他	地域リハビリテーション実習演習	後期	1	15
	27科目		34	単位

３学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	総合演習Ⅲ	通年	1	30
専門基礎分野	リハビリテーション医学Ⅲ	通年	2	30
専門分野	作業分析	通年	2	60
	作業療法研究法	後期	1	15
	作業療法管理学	前期	2	30
	発達領域作業療法学Ⅱ	通年	2	40
	整形疾患作業療法学	通年	3	60
	精神疾患作業療法学	通年	3	60
	老年期疾患作業療法学	通年	3	60
	中枢神経疾患作業療法学	通年	3	60
	作業療法技術論	通年	1	30
	義肢装具学	後期	2	30
	地域作業療法学	通年	2	30
	臨床評価実習	通年	9	360
その他	臨床評価実習演習Ⅰ	通年	1	30
	臨床評価実習演習Ⅱ	通年	1	30
	16科目		38	単位

４学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
専門分野	臨床総合実習	前期	17	680
その他	臨床総合実習演習	通年	1	30
	総合演習Ⅳ	通年	5	175
	卒業研究	通年	2	60
	4科目		25	単位

OT3年	通年	講義概要	一般目標
その他		①1～3年生でのグループ学習を行う。6回の授業を通して課題を理解し、理解した内容について発表する。各回において事前・事後課題に取り組む。 ②解剖学・生理学・運動学の分野の国家試験問題に取り組み、4年次に本格化する国家試験対策学習導入とする。同時に年度末の進級試験へ向けての学習ともなる。	1. 他学年を指導することを通じて専門科目との関連性を再確認する。また自らの知識の整理・表出に役立てる。 2. 1～3年次に学んだ内容について理解し、4年次の学習につながるよう知識の定着化を図る。 3. 3月の進級試験に合格できる基礎的な知識を身につける
総合演習Ⅲ			
1単位	15回		
作業療法学科：早川るみこ，兼子健一			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	オリエンテーション【早川】	①1～3年生でのグループ学習の進め方について理解することができる。合同グループで1回目の事前学習に取り組むことができる
2	課題授業① 【早川】	1～3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる
3	課題授業② 【早川】	1～3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる
4	課題授業③ 【早川】	1～3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる
5	課題授業④ 【早川】	1～3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる
6	課題授業⑤ 【早川】	1～3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる
7	課題授業⑥ 【早川】	1～3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる
8	発表①【早川】	6回の授業を通し、提示された課題についてグループで協力して資料作成し、発表することができる 3年生として他学年のサポートができる
9	発表②まとめ・ふりかえり 【早川】	6回の授業を通し、提示された課題についてグループで協力して資料作成し、発表することができる 3年生として他学年のサポートができる
10	進級試験に向けて①【兼子】	国家試験について　勉強方法について（先輩の面鏡場面見学） 評価実習Ⅱ期　コツコツ学習できるように検討する
11	進級試験に向けて②【兼子】	実習期間の取り組み振り返り　取り組み修正検討
12	進級試験に向けて③【兼子】	基礎医学 50問
13	進級試験に向けて④【兼子】	基礎医学 100問 目安45点
14	進級試験に向けて⑤【兼子】	基礎医学 100問 目安50点
15	進級試験に向けて⑥【兼子】	基礎医学 100問 目安55点　≪進級試験の目標：60点以上≫

教科書・参考書・資料

主に人体の構造・人体の機能・運動学の教科書を使用する。
QBクエスチョンバンク 2024 共通
その他、その都度指示をする。

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点100点 ①3学年グループ課題（縦割り授業） 事前課題3点×6回　事後課題3点×6回　12点×1回 ②ミニテスト・プレテスト 16点×3回 ③出席点 4点	日々の積み重ね学習が基本です。 課題の理解に重点を置き、能動的に学習に取り組みましょう。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーション医が行う診断や機能評価について理解を深める。対象患者にそれぞれの職種がどういう立場で関わり、チームとしてどう貢献していくのかを考えることができるようにする。福祉工学とリハビリテーション工学についての基礎的な理解を深める。	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる医学的内容を学習する。バイオメカニクス、特に福祉工学とリハビリテーション工学の基礎的な内容を学習する。
リハビリテーション医学Ⅲ			
2単位	15回		
非常勤講師:鈴木 作業療法学科:兼子健一 理学療法学科:藤原正之			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	国際福祉機器展 参加準備【藤原 兼子】	国際福祉機器展 参加前情報収集 参加目的等を明らかにする
2	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日
3	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日
4	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日
5	国際福祉機器展 現地参加【藤原 兼子】	国際福祉機器展 現地参加 最新の機器などに触れ学習を深める 10月2日～4日のうち1日
6	国際福祉機器展 まとめ資料作成 【藤原 兼子】	国際福祉機器展参加による学びをまとめる
7	国際福祉機器展 参加報告【藤原 兼子】	国際福祉機器展参加体験を共有、学びを深める
8	福祉用具【鈴木】①	福祉用具を活用したリハビリテーションの実践について学ぶ
9	福祉用具【鈴木】②	福祉用具を活用したリハビリテーションの実践について学ぶ
10	車椅子調整【志垣】	車椅子調整について学ぶ
11	座位姿勢と嚥下【志垣】	座位姿勢と嚥下について学ぶ
12	問題演習①【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う
13	問題演習②【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う
14	問題演習③【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う
15	問題演習④【藤原 兼子】	国家試験で問われる内容について確認、解説を行う

教科書・参考書・資料
その時々の本授業に関するニュース、トピックスの新聞等のコピー

判定基準／割合	履修上の留意点
素点:0点 平常点:100点	随時、指示します。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		作業、作業分析について理解する	根拠を持って作業適用をできるようになる
作業分析 (※ 前期15回)			
2単位	30回		
学校顧問:池ノ谷眞里			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	作業の概略・由来など	作業をとりまく考え方について学ぶ。いくつかの事例紹介
2	作業の由来・歴史にみる分野の分析	作業の歴史における変遷を知り、年代別分野の分析・発表
3	作業の歴史にみる分野の分析 生活と作業・作業時間の内容について	生活と作業。生活時間と作業内容の個人差を学び、調査する
4	生活と作業、作業時間 作業と個人史、要因について	個人を取り巻く環境、個人史における作業の特徴因子などを学ぶ
5	生活時間と作業内容について 作業の個人史、摂食作業分析	作業個人史について、食の歴年齢別、地域別の特性について学び、分析する
6	作業の個人史、要因について 作業と健康について	作業の健康効果について学ぶ
7	作業の個人史、要因について 文化における作業について	地域で異なる文化における作業の特性について学ぶ
8	摂食作業史、作業と健康 文化と作業・作業分析	地域・国別の衣・住について分析、手工芸の作業分析の概略を学ぶ
9	作業と健康について 手工芸作業分析	人と作業の概略、作業的存在である人、手工芸の構成要素について学ぶ
10	文化と作業について 手工芸作業分析	手工芸の構成要素である素材要素について学び分析する
11	文化と作業、作業分析 手工芸作業分析	手工芸の構成要素である過程、道(工)具について分析する
12	文化と作業、作業と人間 心身機能に基づく作業分析	手工芸、作業における心身機能の働きを学ぶ
13	手工芸作業と分析 身体機能に基づく作業分析	手工芸作業における身体機能の分析を学ぶ
14	手工芸作業と分析、過程について 身体機能に基づいた作業分析	選択した手工芸作業について関節可動域・他の分析を学ぶ
15	定期試験	学んだことのまとめ

教科書・参考書・資料
標準作業療法学 基礎作業学第3版 /小林夏子、福田恵美子編 医学書院 他、その都度資料を配布する

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点:10点(出席 その他) 素　点:90点(定期試験)	グループワークなど、積極的に参加すること

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		ライフステージと作業療法 人が発達していくと，それぞれの段階で求められる課題は変化していく． 本講義では，ライフステージに関わる理論の復習と，各ライフステージと作業とのつながりについて，論じていく．	対象者のライフステージに適合した作業を見つけて作業療法の課題を考察できるようになるために，小児から高齢者までの生活と，そこでの人間関係を含めた課題について理解を深めていく
作業分析 (※ 後期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科： 金谷優志，隈部智之，早川るみこ			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
16	作業と人間発達 【金谷】	感覚統合理論を参考にして，生物学的に発達する感覚と それらが用いられる作業とを関連付けて説明できるようになる
17	作業と運動発達 【金谷】	さまざまな運動発達の理論を基礎にして， 運動発達と関連してくる作業の発達を理解できるようになる
18	知的発達の理論 知的発達と作業課題 【金谷】	知的発達の段階と関連してくる作業の発達を理解できるようになる
19	発達過程の作業療法例 【金谷】	症例を通して，発達段階に応じた作業療法の経過をたどり， 作業療法士の役割について話し合うことができる．
20	青年期と作業療法 【隈部】	青年期とはどのようなライフステージであるか、個人・グループワークを通して考察する。
21	作業と人間関係の構築 【隈部】	人が他者と人間関係を構築していくのかを心理社会的発達の理論を参考にして理解を深める
22	作業と社会とのかかわり 【隈部】	作業と社会の関わりをコミュニケーションや人の欲求と作業、集団療法を通して学ぶ
23	対象者の人間関係を支援する 【隈部】	症例検討を通して、対象者の人間関係の支援について考える
24	青年期の作業療法 まとめ 【隈部】	青年期の生活と、人間関係を含めた課題について理解を深める
25	作業療法と作業の捉え方 【早川】	作業療法の理論、作業分析の方法や効果の復習、症例紹介
26	高齢者の心身と作業 【早川】	グループワーク 症例検討 心身機能面から作業分析、作業適応を考える
27	生活と役割と作業 【早川】	グループワーク 症例検討 生活機能や役割から作業分析、作業適応を考える
28	認知症のある方の作業 【早川】	グループワーク 認知症のある方の作業分析、作業適応を考える
29	高齢者の作業療法 まとめ 【早川】	グループワーク 作業活動の意義を考える
30	まとめ 学習理解度の確認	試験を通じて学習理解度の確認をはかる

教科書・参考書・資料
参考資料：標準作業療法学 基礎作業学第3版 ／ 濱口豊太 編 医学書院

判定基準／割合	履修上の留意点
素　点：後期試験：60点 平常点：授業態度、グループワーク；40点	授業中は、積極的に取り組みましょう。また、グループワークは、意欲的に参加しましょう。

OT3年	後期	講義概要	一般目標
専門分野		この講義を通じて社会人として必要となるPDCAサイクルを回すスキルの向上を目指します。まず、目標・目的に合った情報収集・リサーチを行い、現状分析を統計的手法を用いて行いて分析できるようになることを目指します。そして、次に、分析結果から改善行動計画・修正行動計画を考えられるようになることを目指します。	・データの整理ができる ・2群のパラメトリック検定が行える ・相関係数を求めることができる ・単回帰分析ができる ・文献検索を適切に行うことができる
作業療法研究法			
1単位	8回		
作業療法学科:原悠平			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	研究論文	論文やエビデンスについての理解
2	文献	文献の調べ方 文献の活かし方
3	データの整理	PDCAサイクルとリサーチ 度数分布表　様々なグラフ
4	資料の整理	代表値(平均値 中央値 四分位数) 箱ひげ図
5	データの要約	基本統計量 ヒストグラム 分布の特徴把握
6	2群のパラメトリック検定	統計的検討 対応のあるt検定 対応のないt検定
7	多変量解析	相関係数・回帰分析
8	まとめ	学習内容確認

教科書・参考書・資料

【教科書】向後千春, 他:身につく入門統計学, 技術評論社, 2016.

その他は、その都度指示します。

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点:100点 (出席点:10点) (課題:90点)	

OT3年	前期	講義概要	一般目標
専門分野 作業療法管理学 2単位 15回 作業療法学科:兼子健一 非常勤講師		まず、様々なテーマについて、自分の考えを整理し、他者の考えを理解し、そして俯瞰的な視点で物事を捉え、思考を整理することを学びます。 そして、作業療法の現場について、職業倫理と管理の観点から学習します。	【一般目標】 作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 【行動目標】 ・倫理が医療にとってなぜ重要なのか説明できる。 ・作業療法士が臨床現場で倫理について考える意義を述べることができる。

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	倫理的判断と?①	・倫理の基礎となる問いを知る。「正しい」とは何か、先駆者の考えを知る。 ・倫理的問題に対するアプローチ方法を知る。 ・「生命倫理」4原則を理解する。
2	倫理的判断と?②	・倫理の基礎となる問いを知る。「正しい」とは何か、先駆者の考えを知る。 ・倫理的問題に対するアプローチ方法を知る。 ・「生命倫理」4原則を理解する。
3	患者との関わり	・医の倫理の基礎となる患者との関係に関わる倫理的な問題の所在がわかる。 ・「説明と同意」の必要性が説明できる。 ・「守秘義務」の根拠を説明できる。
4	社会との関わり	・医療者の患者に対する義務と社会に対する義務の対立について説明できる。 ・社会資源の分配に関わる倫理的問題について理解し、例を挙げて説明できる。 ・医療者の社会や世界の保健に対する義務と責任について理解する。
5	他スタッフとの関わり	・医療者の職業システムそのものが内包する倫理的問題を理解する。 ・他の医療者の非倫理的行動を報告することの正当性を説明できる。 ・多職種との連携に関する倫理原則を説明できる。
6	医療安全①	・インシデントレポートの目的を理解する。 ・ヒューマンエラーは原因ではなく結果であるということを理解する。 ・コミュニケーションエラーを防ぐ方法を知る。
7	医療安全①	・インシデントレポートの目的を理解する。 ・ヒューマンエラーは原因ではなく結果であるということを理解する。 ・コミュニケーションエラーを防ぐ方法を知る。
8	ディスカッション	1～7回の内容について他学生とディスカッションを行い、自分の考えを深める。
9	臨床倫理【池田】①	臨床現場で実際に発生する倫理的な問題について学び・検討します。
10	臨床倫理【池田】②	臨床現場で実際に発生する倫理的な問題について学び・検討します。
11	作業療法管理【峯下】①	チームアプローチにおける作業療法部門の管理について学びます。
12	作業療法管理【峯下】②	チームアプローチにおける作業療法部門の管理について学びます。
13	作業療法管理【峯下】③	チームアプローチにおける作業療法部門の管理について学びます。
14	作業療法管理【峯下】④	チームアプローチにおける作業療法部門の管理について学びます。
15	コンプライアンス 法令順守【山本】	リハビリテーションと法律

教科書・参考書・資料
参考書:WMA医の倫理マニュアル 適宜プリント配布します。

判定基準／割合	履修上の留意点
筆点:50点(10点×5) 平常点:50点(能動的参加)	1-8で5回ミニテストを行います。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 発達領域作業療法学Ⅱ (※ 前期10回) 2単位 20回 作業療法学科:金谷優志 非常勤講師:中頭,三屋		(前期) 発達領域の対象児の特性や疾患を理解したうえで,支援を行っていく際,一般的な発達理論とともに確立された治療理論を用いることがある.本講義ではいくつかの治療理論について学習していくとともに,実際の支援場面で用いるであろう教具(玩具)を作成することで,作業療法支援の過程を経験する	◎発達領域の作業療法の一連の過程を再確認する. ◎各種治療理論の成り立ちと,対象疾患・障害について理解する. ◎学習してきた理論をもとに,仮想対象者に対して教具(玩具など)を作成し,支援の体験をする.

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	オリエンテーション 遊びを用いた作業療法介入① 支援で使える遊びを考える	○講義の予定,学習内容について理解する. ○後期に実施される,遊び(玩具)作成の課題に向けたオリエンテーション ○手製玩具・既成玩具の例を見て,治療的応用の方法を知る
2	作業療法における支援(治療)の概略	○発達領域の作業療法の実施において,基本的に必要な考え方を知る ○どのような領域に対して作業療法を提供していけるかを知る
3	作業療法支援① 感覚統合機能に対するアプローチ p.47-	○感覚統合の視点に立ったアプローチが説明できる ○感覚統合機能の評価の方法・観点が説明できる ○各感覚統合不全に対するアプローチの方法を説明できる
4	作業療法支援②【体験】 感覚統合機能に対するアプローチ p.47-	○感覚統合理論をベースにした支援(遊び)を経験する ○遊びに内在する治療的要素を分析することができる
5	作業療法支援③ 姿勢と運動へのアプローチ p.97-	○脳性麻痺の定義と,類型を説明できる ○姿勢と運動の評価における観点を説明できる ○各類型に対するアプローチの方法を説明できる
6	作業療法支援④ 姿勢と運動へのアプローチ p.97-	○脳性麻痺児に対する環境調整について説明できる ○セルフケアの援助方法について説明できる
7	作業療法支援⑤ 知的障害に対するアプローチ p.97-	○知的障害のある児の行動・活動を分析する際の要素について説明できる ○各ライフステージにおけるアプローチについて説明できる
8	作業療法支援⑥ デュシェンヌ型筋ジストロフィー p.181-	○デュシェンヌ型筋ジストロフィーの定義と発達経過について説明できる ○適応行動を促す環境調整について説明できる
9	遊びを用いた作業療法介入② 【ワーク】支援で使える遊びを考える	○講義内容および情報収集を元に,支援で使える遊びを検討する ○制作活動に入る前段階として,企画書を作成する ○企画を共有し,視点や文脈の違いを理解する
10	遊びを用いた作業療法介入③ 【発表】支援で使える遊びを考える	○講義内容および情報収集を元に,支援で使える遊びを検討する ○制作活動に入る前段階として,企画書を作成する ○企画を共有し,視点や文脈の違いを理解する

教科書・参考書・資料

教科書:神作一実(編):作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版,メジカルビュー,2015.
参考書:岩崎清隆,岸本光夫(著):発達障害の作業療法 実践編.第2版,三輪書店,2015.
土田玲子,小西紀一(監訳):感覚統合とその実践.第2版,協同医書出版社,2006.
園田徹ほか(監訳):子どもの手の機能と発達.原著第2版,医歯薬出版株式会社,2010.
高橋智宏(監訳):神経発達学的治療と感覚統合理論.協同医書出版社,2001.

判定基準／割合	履修上の留意点
素　点:0点 平常点:100点(課題;玩具・遊具作成計画書)	○講義では,教科書・配布プリントを使用します.必ず持ってきてください. ○グループワーク実施回はディスカッションしやすいように座席を並べ替えてください. ○日ごろから,遊具・玩具について情報収集をしておいてください.

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 発達領域作業療法学Ⅱ (※ 後期10回) 2単位 20回 作業療法学科:金谷優志 非常勤講師 :三屋, 中頭		(後期) 発達領域の対象児の特性や疾患を理解したうえで, 支援を行っていく際, 一般的な発達理論とともに確立された治療理論を用いることがある. 本講義ではいくつかの治療理論について学習していくとともに, 実際の支援場面で用いるであろう教具(玩具)を作成することで, 作業療法支援の過程を経験する	◎発達領域の作業療法の一連の過程を再確認する. ◎各種治療理論の成り立ちと, 対象疾患・障害について理解する. ◎学習してきた理論をもとに, 仮想対象者に対して教具(玩具など)を作成し, 支援の体験をする.

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
11	作業療法支援⑦ 摂食・嚥下機能に対する作業療法 p.167-	○摂食・嚥下に関わる人体の構造について理解する ○一般的な乳幼児の摂食・嚥下機能の発達について理解する
12	作業療法支援⑧【体験・実技】 摂食・嚥下機能に対する作業療法 p.167-	○前回学習した内容をもとに自身が食べることを通して, 知識を定着させる ○摂食・嚥下機能が障害されている状態と, それに対する支援方法を知る
13	作業療法支援⑨ 育児支援, 保護者への支援 p.246-,p.262-	○発達領域の対象者は子どもだけでなく周囲の大人も含まれることを知る ○作業療法では, 保護者の育児も支援できることを理解する ○保育者・教育者との協業により子どもの支援がより円滑になることを知る
14	作業療法支援⑩ 被虐待児への作業療法 p.253	○こどもの虐待について, その定義と分類・原因などが説明できる ○被虐待児に対する作業療法支援について知る
15	作業療法支援の実際① 医療機関における発達支援【三屋】	○医療機関におけるサービスの流れを知る ○医療機関における発達支援対象児の特徴を知る ○医療機関における発達支援の例を学ぶ
16	作業療法支援の実際② 福祉施設における発達支援【中頭】	○福祉施設におけるサービスの流れを知る ○福祉施設における発達支援対象児の特徴を知る ○福祉施設における発達支援の例を学ぶ
17	作業療法支援の実際③ 在宅における発達支援【金谷】	○在宅(訪問リハ)におけるサービスの流れを知る ○在宅(訪問リハ)における発達支援対象児の特徴を知る ○在宅(訪問リハ)における発達支援の実際を学ぶ
18	遊びを用いた作業療法介入③ 【発表】支援で使える遊びを考える	○グループワークにより作成した遊び(玩具)を発表する ○作成した経緯, 仮想対象の状況, 意図, 考察をまとめる ○作成者のﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞにより, 思考過程に違いが生じることを理解する
19	遊びを用いた作業療法介入④ 【発表】支援で使える遊びを考える	〃
20	まとめ 学習理解度確認	○試験を通じて理解度を確認する

教科書・参考書・資料

教科書:神作一実(編):作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版, メジカルビュー, 2015.
参考書:岩崎清隆, 岸本光夫(著):発達障害の作業療法 実践編. 第2版, 三輪書店, 2015.
土田玲子, 小西紀一(監訳):感覚統合とその実践. 第2版, 協同医書出版社, 2006.
園田徹ほか(監訳):子どもの手の機能と発達. 原著第2版, 医歯薬出版株式会社, 2010.
高橋智宏(監訳):神経発達学的治療と感覚統合理論. 協同医書出版社, 2001.

判定基準／割合	履修上の留意点
素　点:50点(後期試験) 平常点:50点(玩具・遊具作成・発表)	○講義では, 教科書・配布プリントを使用します. 必ず持ってきてください. ○グループワーク実施回はディスカッションしやすいように座席を並べ替えてください. ○12回目では, 摂食・嚥下の体験をします. ○日ごろから, 遊具・玩具について情報収集をしておいてください.

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		身体機能作業療法の目的や対象、治療のプロセスや考え方、リスク管理を学習する。	
整形疾患作業療法学 (※ 前期15回)			
3単位	30回		
非常勤講師:水越竜司 作業療法学科教員			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	対象者とセラピストのためのボディメカニクス	ボディメカニクスについての説明(要素・介助方法・身体運動に関する基本的要素)
2	運動制御理論と運動学習	5つの運動制御理論 運動学習の段階・課題提示 フィードバック・練習法・環境設定
3	関節可動域の維持・拡大	制限の原因と機序 訓練に使用する4つの運動と目的と適応
4	関節可動域の維持・拡大	ROM訓練の運動の選択基準 ROM訓練の注意事項
5	関節可動域の維持・拡大	実技練習 可動域測定方法 ※ゲスト参加有
6	関節可動域の維持・拡大	可動域訓練方法 四肢の持ち方・各関節の動かし方 ※ゲスト参加有
7	筋力と筋持久力の維持・拡大	要因と原理 訓練の考慮すべき要素4つ 筋力が増強する時の機序2つ
8	筋力と筋持久力の維持・拡大	筋力・筋持久力の種類5つ 3種類の筋収縮による訓練法 注意事項・注意点
9	廃用症候群とその対応	廃用症候群の概念 原因や諸症状 対応の原則3つ 作業療法士の廃用症候群への対応
10	物理療法の基礎	定義・分類 各種物理療法の適応・禁忌・使用方法・治療法 浮腫の原因・分類 軽減方法
11	骨折	治癒の3過程 医学的治療法2つ 注意事項 評価・目標・プログラム 定義 開放骨折と閉鎖骨折の違い 骨折に伴う4つの症状 合併症5つ
12	骨折	上腕骨骨折・前腕骨折・手部骨折 大腿骨骨折 脊椎骨骨折 脱臼・亜脱臼
13	加齢性関節疾患	定義と分類 肩関節周囲炎 手指変形性関節症 評価・プログラム
14	加齢性関節疾患	変形性股関節症 評価・プログラム 変形性膝関節症 評価・プログラム
15	定期試験	定期試験

教科書・参考書・資料
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版, 医学書院, 2021

判定基準／割合	履修上の留意点
判定基準については別途伝達する。	

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		身体機能作業療法の目的や対象、治療のプロセスや考え方、リスク管理を学習する。	
整形疾患作業療法学 (※ 後期15回)			
3単位	30回		
非常勤講師:水越竜司 作業療法学科教員			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
16	関節リウマチと類縁疾患	RAの種類、疫学 疾患過程 症状 医学的治療と作業療法
17	関節リウマチと類縁疾患	作業療法評価 各病期に応じた目標設定 作業療法プログラム
18	上肢の末梢神経損傷	末梢神経の構造・分類・特徴 再生過程と予後予測 臨床症状3つ 損傷部位ごとの特徴
19	上肢の末梢神経損傷	絞扼性神経障害3つ 保存療法の対象 間欠的治療5つ
20	上肢の末梢神経損傷	作業療法評価 外在筋・内在筋(ごまかし・代償運動)
21	上肢の末梢神経損傷	作業療法目標 プログラム
22	腱損傷(手指)	特徴と臨床症状 作業療法評価 (拘縮の種類3つ・各用語)
23	腱損傷(手指)	作業療法目標・プログラム
24	腱損傷(肩腱板断裂)	特徴と臨床症状 作業療法評価
25	腱損傷(肩腱板断裂)	作業療法目標・プログラム
26	熱傷	特徴と臨床症状 医学的治療と作業療法の関連
27	熱傷	作業療法評価・目標・プログラム ADL指導・社会参加支援
28	腰痛症	特徴と臨床症状 医学的治療と作業療法の関連
29	腰痛症	病期に応じた作業療法評価 プログラム
30	後期試験	

教科書・参考書・資料
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版, 医学書院, 2021

判定基準/割合	履修上の留意点
判定基準については別途伝達する。	

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		標準化された評価法を学習する。その上で作業療法評価とアプローチを理解し実践できるよう、各疾患の作業療法について講義する。	①精神障害者を取り巻く状況と作業療法の意義と課題について理解する。 ②各疾患の作業療法治療学を習得し実習で実践出来る力を身に付ける。
精神疾患作業療法学 (※前期15回)			
3単位	30回		
作業療法学科:隈部智之			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	精神障害作業療法とは　基礎概念	精神障害における作業療法や、精神科医療状況を学ぶ。
2	統合失調症と作業療法①	統合失調症と急性期の作業療法を理解できる。
3	統合失調症と作業療法②	統合失調症回復期から維持期、再発予防の作業療法について知る。
4	気分障害(うつ病)の作業療法	気分障害(うつ病)と作業療法について学ぶ。
5	気分障害(双極性障害)	気分障害(双極性障害)と作業療法について理解できる。
6	神経症性障害と作業療法①	神経症性障害と作業療法について学ぶ。
7	神経症性障害と作業療法②	神経症性障害と作業療法について理解を深める。
8	認知症と作業療法①	認知症と作業療法について学ぶ。
9	認知症と作業療法②	認知症と作業療法について理解できる。
10	てんかんと作業療法	てんかんと作業療法について推論できる。
11	パーソナリティ障害と作業療法	パーソナリティ障害と作業療法について理解できる。
12	摂食障害と作業療法	摂食障害と作業療法について学ぶ。
13	依存症と作業療法①	依存症と作業療法について理解を深める。
14	依存症と作業療法②	依存症と作業療法について推論できる。
15	理解度確認	試験を通して理解度を確認する。

教科書・参考書・資料

教科書:ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法 第3版 メジカルビュー社

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点:小テスト30点 素　点:定期試験70点	精神障害者を取り巻く状況を知り、理解を深めていきましょう。また授業を通して、実習で実践できる力を身につけていきましょう。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		標準化された評価法を学習する。その上で作業療法評価とアプローチを理解し実践できるよう、各疾患の作業療法について講義する。	①精神障害者を取り巻く状況と作業療法の意義と課題について理解する。 ②各疾患の作業療法治療学を習得し実習で実践出来る力を身に付ける。
精神疾患作業療法学 (※後期15回)			
3単位	30回		
作業療法学科:限部智之			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	器質性精神障害と作業療法	器質性精神障害と作業療法について学ぶ。
2	発達障害と作業療法①	発達障害と作業療法について理解する。
3	発達障害と作業療法②	発達障害と作業療法について学びを深める。
4	精神科作業療法 1時間コース①	精神科作業療法を体験する。
5	精神科作業療法 1時間コース②	精神科作業療法のプログラム立案を行う。
6	精神科作業療法 1時間コース③	精神科作業療法プログラム実践(1回目)
7	精神科作業療法 1時間コース④	精神科作業療法プログラム実践(2回目)
8	精神科作業療法 1時間コース⑤	精神科作業療法プログラム実践(3回目)
9	精神科作業療法 1時間コース⑥	精神科作業療法プログラム実践(4回目)
10	MTDLP①	MTDLPを用いて強みや問題点、治療目標、プログラムを挙げることが出来る。
11	MTDLP②	MTDLPを用いて強みや問題点、治療目標、プログラムを挙げることが出来る。
12	当事者体験談	当事者の話を聞き学ぶ。
13	国家試験問題演習	国家試験の問題を解き理解を深める。
14	国家試験問題演習	国家試験の問題を解き理解を深める。
15	理解度確認	試験を通して理解度を確認する。

教科書・参考書・資料
教科書:ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法 第3版 メジカルビュー社

判定基準/割合	履修上の留意点
平常点:小テスト30点 素　点:定期試験70点	精神障害者を取り巻く状況を知り、理解を深めていきましょう。また授業を通して、実習で実践できる力を身につけていきましょう。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		高齢者の加齢による身体的・心理的・社会的な変化や老年期障害に対する病態・評価・治療に関する基礎知識、また高齢社会の現状、社会制度を学びます。 高齢者の心身機能の特徴・疾患について学び、臨床での評価・治療に役立てることを目的としています。	①高齢者が生きてきた時代背景や社会の推移を理解する ②高齢者の心身機能の特徴や疾患について理解する ③老年期障害の生活・障害構造、社会資源を知る ④老年期作業療法で活用できる評価法と、それらに対する具体的援助（目標から実践）を考えることができる
老年期疾患作業療法学 （※ 前期15回）			
3単位	30回		
作業療法学科：早川るみこ			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	高齢社会とは（3-13）、 高齢期の課題（14-27）	老年期作業療法の理念と目的、歴史的変遷、役割について 高齢者の定義・高齢社会の要因、老年期作業療法の目的を説明できる
2	高齢期の特徴（41−52）	高齢者の生理・身体的特徴・精神的特徴を説明できる
3	高齢期の特徴（41−52）	高齢者の生理・身体的特徴・精神的特徴を説明できる
4	高齢期の特徴（41−52）	高齢者の生理・身体的特徴・精神的特徴を説明できる
5	社会制度（28−32 232−241）	介護保険制度について概要を説明できる、地域包括ケアシステムの目的を説明できる
6	社会制度（28−32 232−241）	介護保険制度について概要を説明できる、地域包括ケアシステムの目的を説明できる
7	高齢期作業療法の目的（33−40） 高齢者に対する作業療法実践課程（評価） （91−101）	高齢者への作業療法の目的が説明できる 高齢者に関わる評価項目を目的と方法を説明できる
8	高齢者に対する作業療法実践課程（評価） （91−101）	高齢者に関わる評価項目を目的と方法を説明できる
9	人権と尊厳（81−90）	人権・尊厳について意見を述べることができる 尊厳保持につながる生活の場について考えることができる
10	病期や実施場所による違い（102−131） 事例検討ー要介護者（169−184）	間や場所の違いによる作業療法の目的や役割を説明できる 事例検討を通してさらに理解を深める
11	認知症（66−77）	代表的な認知症について（アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、ピック病など）病態・原因・症状（中核症状・BPSD）を説明できる
12	認知症の作業療法（141−156）	認知症を有する方への作業療法の実践が説明できる
13	認知症 事例検討 軽度（185−194） 中等度（195−205） 重度（206−217）	事例検討を通して認知症の理解を深めることができる
14	認知症 事例検討 軽度（185−194） 中等度（195−205） 重度（206−218）	事例検討を通して認知症の理解を深めることができる
15	まとめ 理解度の確認	試験を通して前期学習到達度を確認する 今後の学習課題を明らかにする

教科書・参考書・資料

教科書：松房利憲 他 標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版 医学書院
参考資料：守口恭子他 老年期の作業療法 第3版 三輪書店
守口恭子他 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 三輪書店

判定基準／割合	履修上の留意点
素点（筆記 前期） :80点 試験範囲は1～21回まで 試験時は100点満点で実施（成績判定は×0.8） 平常点：レポート :20点	・積極的な態度で授業に臨みましょう ・グループワーク学習では、主体的に取り組みましょう ・提出物は期日を守りましょう ・事前準備（必ず教科書は読んでおいてください）、授業後は振り返りをしましょう

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		高齢者の加齢による身体的・心理的・社会的な変化や老年期障害に対する病態・評価・治療に関する基礎知識、また高齢社会の現状、社会制度を学びます。 高齢者の心身機能の特徴・疾患について学び、臨床での評価・治療に役立てることを目的としています。	①高齢者が生きてきた時代背景や社会の推移を理解する ②高齢者の心身機能の特徴や疾患について理解する ③老年期障害の生活・障害構造、社会資源を知る ④老年期作業療法で活用できる評価法と、それらに対する具体的援助（目標から実践）を考えることができる
老年期疾患作業療法学 （※ 後期15回）			
3単位	30回		
作業療法学科：早川るみこ			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
16	認知症 事例検討 軽度（185−194） 中等度（195−205） 重度（206−218）	事例検討を通して認知症の理解を深めることができる
17	高齢期に多い疾患①（53−65）	高齢期に多い疾患の病態像・原因・症状・留意点について説明できる
18	高齢期に多い疾患②（53−65）	高齢期に多い疾患の病態像・原因・症状・留意点について説明できる
19	介護予防の作業療法（132−140） 健康高齢者の作業療法（158−162）	介護予防と介護予防事業について 介護予防の作業療法の理解ができる
20	一般高齢者の作業療法 要支援者の作業療法（163−168）	虚弱高齢者に対する作業療法が説明できる
21	寝たきりの方の作業療法 エンドオフライフケア（218−225）	身体障害を持った高齢者に対する作業療法が説明できる 寝たきり高齢者に対する作業療法が説明できる
22	実技演習	高齢者の移乗方法や車いす・歩行介助、車の乗り降りの介助ができる（買い物体験）
23	実技演習	高齢者の移乗方法や車いす・歩行介助、車の乗り降りの介助ができる
24	実技演習	高齢者の移乗方法や車いす・歩行介助、車の乗り降りの介助ができる
25	症例演習	症例から評価〜治療プログラムの立案ができる
26	症例演習	症例から評価〜治療プログラムの立案ができる
27	問題演習	高齢期領域の国家試験問題演習 （認知症・老年期評価） 高齢期の作業療法の理解を深める
28	問題演習	高齢期領域の国家試験問題演習 （認知症・老年期評価） 高齢期の作業療法の理解を深める
29	問題演習	高齢期領域の国家試験問題演習 （認知症・老年期評価） 高齢期の作業療法の理解を深める
30	まとめ 理解度の確認	試験を通して後期学習到達度を確認する 今後の学習課題を明らかにする

教科書・参考書・資料

教科書：松房利憲 他 標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版 医学書院
参考資料：守口恭子他 老年期の作業療法 第3版 三輪書店
守口恭子他 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 三輪書店

判定基準／割合	履修上の留意点
素点（筆記 後期） :60点 試験範囲は22〜29回まで 計100点満点で実施（成績判定は×0.6） 平常点（レポート） :40点	・積極的な態度で授業に臨みましょう ・グループワーク学習では、主体的に取り組みましょう ・提出物は期日を守りましょう ・事前準備（必ず教科書は読んでおいてください）、授業後は振り返りをしましょう

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 中枢神経疾患作業療法学 (※ 前期20回) 3単位 30回 作業療法学科:兼子健一 学校顧問:池ノ谷眞里		中枢神経疾患作業療法治療学は、中枢神経疾患の作業療法の評価、予後予測、目標設定、作業療法プログラム作成といった一連の過程を学びます。各疾患の症例をとりあげ、症例を通じて学びを深めて行きます(神経変性疾患に関しては池ノ谷先生が教授致します)。	☑対象者に応じた身体機能作業療法が実施できるようになるために、身体機能作業療法の概要を理解する。 ☑身体機能作業療法を実施できるようになるために治療原理を理解し修得する。 ☑脳血管障害の対象者に作業療法を実施できるようになるために、疾患の病態を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助方法を修得する。

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	身体機能作業療法 目的と方法、対象【兼子】	・作業療法の3つの目的　・身体機能作業療法の3つのアプローチ ・身体機能作業療法の対象疾患と障害 8-16
2	身体障害作業療法の 枠組①	・2種類の評価・治療方式　・身体機能作業療法のプロセス 17-33
3	身体障害作業療法の 枠組②	・臨床的推論、根拠に基づく実践、治療理論 ・リスク管理 34-48
4	身体機能作業療法実践	・病期に応じた作業療法の実践 ・実施場所に応じた作業療法の実践 50-58
5	脳卒中予後予測①	・従来の予後予測法 参93-113
6	脳卒中予後予測②	・対数予測、ADL構造分析、自宅復帰率 参148-169
7	脳卒中予後予測③	事例検討 参186-
8	身体機能作業療法の治療原理①	・筋緊張異常とその治療 101-113
9	身体機能作業療法の治療原理②	・不随意運動とその治療 ・協調運動障害とその治療 113-127
10	身体機能作業療法の治療原理②	・感覚・知覚再教育 128-135
11	脳血管疾患①	・概要　・作業療法評価　176-184 ・3ステージ理論 原寛美:脳卒中運動麻痺回復可塑性理論とステージ理論に依拠したリハビリテーション
12	脳血管疾患②	・作業療法の目標　・作業療法プログラム　185-201 ・行動学習理論 山崎裕司 他:行動学習理論を用いた日常生活動作練習
13	脳血管疾患③	・作業療法の目標　・作業療法プログラム　185-201 ・Transfer package 小渕浩平 他:Transfer packageを中心とした週1回20分の外来作業療法の取り組み
14	脳血管疾患④	・作業療法の目標　・作業療法プログラム　185-201 ・ポジショニング PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 150-157
15	脳血管疾患⑤	・作業療法の目標　・作業療法プログラム　185-201 ・起き上がり PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 158-176

教科書・参考書・資料

【教科書】山口昇 編:身体機能作業療法学 第4版, 医学書院, 東京, 2021.
病気が見える⑦脳・神経 第2版, メディックメディア, 東京, 2017.
PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編, 金原出版, 東京, 2017.
【参考書】道免和久 編:脳卒中 機能評価・予後予測マニュアル, 医学書院, 東京, 2013.

判定基準／割合	履修上の留意点
素点:90点 平常点:10点(能動的参加)	脳卒中予後予測ではPC、Excelを使用します。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		中枢神経疾患作業療法学は、中枢神経疾患の作業療法の評価、予後予測、目標設定、作業療法プログラム作成といった一連の過程を学びます。各疾患の症例をとりあげ、症例を通じて学びを深めて行きます（神経変性疾患に関しては池ノ谷が担当します）。	脳血管障害、脊髄損傷、神経変性疾患の対象者に作業療法を実施できるようになるために、この疾患の病態を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。 疾患に適した作業療法の介入方法を習得する。
中枢神経疾患作業療法学 (※ 後期10回)			
3単位	30回		
作業療法学科：兼子健一 学校顧問：池ノ谷眞里			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
16	脳血管疾患⑥	・作業療法の目標　・作業療法プログラム　185-201 ・促通手技　51-61 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
17	脳血管疾患⑦	・作業療法の目標　・作業療法プログラム　185-201 ・更衣（下）　292--311 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
18	頭部外傷①	・概要　・作業療法評価 ・作業療法プログラム
19	頭部外傷②	・高次脳機能障害者の支援手引き
20	理解度確認【兼子】	前期 筆記試験で理解度を確認する
21	脊髄損傷①	・概要 ・作業療法評価
22	脊髄損傷②	・作業療法プログラム
23	脊髄損傷③	・作業療法プログラム
24	作業療法介入	・歩行 252-272 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
25	作業療法介入	・更衣（下） 312-329 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編
26	変性疾患の作業療法 ① 【池ノ谷】	・慢性中枢性神経疾患の概略を学ぶ ・事例紹介
27	変性疾患の作業療法 ② 【池ノ谷】	・パーキンソン病の特性と臨床に基づいた作業療法の実際を学ぶ
28	変性疾患の作業療法 ③ 【池ノ谷】	・脊髄小脳変性症の特性と臨床に基づいた作業療法の実際を学ぶ
29	変性疾患の作業療法 ④ 【池ノ谷】	・多発性硬化症、ギランバレー症候群の特性と臨床に基づいた作業療法の実際を学ぶ ・筋萎縮性側索硬化症の特性と臨床に基づいた作業療法の実際を学ぶ
30	理解度確認【池ノ谷 兼子】	後期 筆記試験で理解度を確認する

教科書・参考書・資料

【教科書】山口昇 編：身体機能作業療法学 第4版，医学書院，東京，2021.
病気が見える⑦脳・神経 第2版，メディックメディア，東京，2017.
PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編，金原出版，東京，2017.
【参考書】道免和久 編：脳卒中 機能評価・予後予測マニュアル，医学書院，東京，2013.

判定基準／割合	履修上の留意点
素点：90点（池ノ谷45点 兼子45点） 平常点：10点（能動的参加）	

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		本講義は、学生がこれから社会人として、作業療法士として実社会のなかで、自分を生かして活躍、生き抜いていくために広範囲な分野から様々な視点での学習を行っていきます。	・社会人として基本的なマナーや考え方を身につける ・作業療法士として必要とされる知識や技術を身につける ・一人一人が社会人として、作業療法士として社会に貢献し活躍できる可能性を実感できる
作業療法技術論			
1単位	15回		
作業療法学科：兼子健一 非常勤講師			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	自助具作成【兼子】①	自助具作成
2	自助具作成【兼子】②	自助具作成
3	義肢装具【浦田】①	義肢装具士と作業療法士の協働について学びます。
4	義肢装具【浦田】②	義肢装具士と作業療法士の協働について学びます。
5	義肢装具【浦田】③	義肢装具士と作業療法士の協働について学びます。
6	転機を乗り越える【兼子】①	対象者の転機を乗り越える支援について考える 4S理論等
7	転機を乗り越える【兼子】②	対象者の転機を乗り越える支援について考える 4S理論等
8	リワーク【谷口】①	リワークの支援について学びます。
9	リワーク【谷口】②	リワークの支援について学びます。
10	吸引【早川】①	吸引の方法について学びます。
11	吸引【早川】②	吸引の方法について学びます。
12	吸引【早川】③	吸引の方法について学びます。
13	吸引【早川】④	吸引の方法について学びます。
14	起業【高橋】	作業療法士の起業、作業療法士としての可能性について学びます。
15	就職について【兼子】	キャリアアンカーについて考える 作業療法士として働くための就職活動について考えます。

教科書・参考書・資料
適宜、資料を配布します。

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点：100点 出席、授業への取り組み等を総合して判定する。	

OT3年 後期	講義概要	一般目標
専門分野 義肢装具学 2単位 15回 作業療法学科：武井亜由美，兼子健一	主に義肢・装具の種類や名称、特徴と適応について学ぶ。 実際にスプリントを製作する。	①義肢・装具の名称・分類や特徴・機能が説明できる。 ②各疾患における適応が説明できる。 ③スプリントの製作ができる。 ④義肢・装具に関する問題が解ける。

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	義肢と装具（総論） 【武井】	切断・離断とは何か、切断分類、切断の原因と現状、 義手の種類、義肢の歴史、小児切断、幻肢・幻肢痛について説明できる。
2	義肢の構成要素（名称・種類） 【武井】	義手構成要素の各部名称と特徴を説明できる。 ※小テスト：切断分類
3	義肢の構成要素（適応） 【武井】	切断分類と構成要素の組み合わせについて説明できる。 ※小テスト：ケーブルシステム各部名称
4	義肢のチェックアウト 【武井】	上腕義手・前腕義手のチェックアウト項目・基準・不適合時の原因について説明できる。
5	切断者のリハビリテーション 【武井】	切断者の評価、断端訓練、義手装着前訓練、義手装着訓練について説明できる。 ※小テスト：チェックアウト
6	上肢装具 【武井】	上肢装具の目的・種類・名称について説明できる。
7	体幹装具 【武井】	頸椎装具・体幹装具・側弯症装具の種類と特徴について説明できる。
8	義足・下肢装具 【武井】	義足の種類・名称・特徴について説明できる。 下肢装具の種類・名称、小児疾患に適応する装具について説明できる。
9	疾患別装具の適応① 【武井】	骨折・脱臼・脊髄損傷（残存レベル別）・関節リウマチに適応する装具について説明できる。
10	疾患別装具の適応② 【武井】	末梢神経損傷・脳血管障害・熱傷・腱損傷に適応する装具について説明できる。
11	スプリント製作の流れ 【兼子】	スプリント製作の流れとポイント（原理・免荷部位・ランドマーク・モールディングのポイント・ 型紙の種類、チェックアウト）について説明できる。
12	スプリント製作（演習） 義肢・装具問題演習 【兼子】	トレース法による型どり、問題演習。対象者に適したスプリントの型どりができる。 義肢装具に関する問題が解ける。
13	スプリント製作（演習） 【兼子】	カックアップスプリントの製作 製作の体験を通し、製作者及びクライエントの立場になって考える。
14	スプリント製作（演習） 【兼子】	カックアップスプリントの完成とチェックアウト、レポート作成 対象者に適したスプリントが完成できるチェックアウトができる。
15	まとめ 学習理解度確認	1回～10回までに学んだ事について説明できる・問題が解ける。

教科書・参考書・資料

教科書：石川朗総編集 15レクチャーシリーズ作業療法テキスト義肢装具学 中山書店
参考書：古川宏編集 作業療法学全書第9巻「義肢装具学」共同医書出版
日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修 「義肢装具のチェックポイント第8版」医学書院
矢崎潔著 「手のスプリントのすべて」三輪書店

判定基準／割合	履修上の留意点
素点 84点 （試験範囲は1～10回、100点満点×0.84） 平常点 16点 小テスト3回×2点、スプリント製作レポート10点	≪スプリント製作時≫ 爪を切っておくこと。前腕を出せるるように。ヒモが出ている上着は禁止。 タオル2枚と蛍光ペン、定規、ハサミ持参。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 地域作業療法学 2単位 15回 作業療法学科:隈部智之 非常勤講師:浦部, 中頭, 隈部, 鈴木		地域リハビリテーションとは何か?地域医療の成り立ちから、社会制度、実際に作業療法士が他職種と連携して関わる地域リハの実践を事例も踏まえ学習する。	・地域リハビリテーションとは何か、理解することができる。 ・各種制度、他職種との連携について理解できる。 ・地域リハの実践の場について理解できる。 ・地域作業療法における実際の流れが理解できる。

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	地域作業療法の実践の場を知る①	様々な施設や機関における作業療法について1人1つ担当し発表する。
2	地域作業療法の実践の場を知る②	病院(身体・精神・小児・終末期医療)、診療所(クリニック)、居宅介護支援、自立訓練、地域生活移行
3	地域作業療法の実践の場を知る③	介護老人保健施設(特別養護老人ホーム)、通所介護施設(デイサービスセンター)、訪問リハビリテーション、介護予防事業
4	地域作業療法の実践の場を知る④	地域包括支援センター、基幹相談支援センター、特別支援学校、特別支援学級、放課後等デイサービス、福祉的就労施設、就労継続支援・就労移行支援、企業自治会・ピアサポート
5	国家試験演習①	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする。
6	国家試験演習②	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする。
7	地域作業療法の実践① 【花くじら:浦部】	訪問看護ステーションで働く作業療法士について学ぶ。
8	地域作業療法の実践事例② 【花くじら:浦部】	訪問看護ステーションで働く作業療法士について理解する。
9	地域作業療法の実践事例③ 【花くじら:浦部】	訪問看護ステーションで働く作業療法士について学ぶ。
10	地域作業療法の実践事例④ 【くうぽの:中頭】	発達支援に関わる作業療法士について理解する。
11	地域作業療法の実践事例⑤ 【くうぽの:中頭】	発達支援に関わる作業療法士について学ぶ。
12	地域作業療法の実践事例⑥ 【隈部】	精神科デイケアで働く作業療法士について理解する。
13	地域作業療法の実践事例⑦ 【隈部】	精神科デイケアで働く作業療法士について理解を深める。
14	地域作業療法の実際事例⑧ 【ほうきぼし:鈴木】	相談支援センターで働く作業療法士について学ぶ。
15	まとめ(定期試験)	試験を通して理解度を確認する。

教科書・参考書・資料

参考書:標準作業療法学 地域作業療法学 第2版 医学書院
作業療法ゴールドマスターテキスト 地域作業療法学 メジカルビュー社

判定基準/割合	履修上の留意点
平常点:小テスト30点 素　点:定期試験70点	1年生で学習した地域リハビリテーション学を振り返りつつ、学びを深めていきましょう。地域の様々な場所で働く作業療法士の方々からお話を聞きます。気づきが多いほど良い授業となります。積極的に参加しましょう。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野		作業療法士が関与する領域の臨床実習指導者の下で、その指導と作業療法対象者の協力を受けながら作業療法士に必要とされる評価を経験し、その結果を整理して報告するという一連の技能の実習を行う。 本講義には臨地実習だけでなくOSCEなども含む。 臨地実習：120時間+160時間=280時間 OSCE他：80時間（1.5時間×54コマ）	臨床実習指導者の指導・監督のもとで典型的な障害特性を呈する患者に対して作業療法士としての ①倫理観や基本的態度を身につける ②許容される臨床技能を実践できる ③臨床実習指導者の作業療法の思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができること
臨床評価実習			
9単位	360時間		
作業療法学科：金谷優志 非常勤講師			

	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
	評価実習Ⅰ	120時間（40時間×3週間）
	評価実習Ⅱ	160時間（40時間×4週間）
1	MTDLP【浦部】①	実習報告書準備 MTDLPの基礎について理解 基本シートを使えるようになる
2	MTDLP【浦部】②	実習報告書準備 MTDLPの基礎について理解 基本シートを使えるようになる
3	MTDLP【浦部】③	実習報告書準備 MTDLPの基礎について理解 基本シートを使えるようになる
4	精神科 アルコール【齋藤】	精神科 アルコール依存症に関する理解を深める
5	実習指導者会議①	実習指導者との顔合わせ 情報交換
6	実習指導者会議②	実習指導者との顔合わせ 情報交換
7	OSCEⅠ①	OSCEⅠのオリエンテーション
8	OSCEⅠ②	OSCEⅠ 実技練習
9	OSCEⅠ③	OSCEⅠ 実施 技能チェック 即時FB 記録
10	OSCEⅠ④	OSCEⅠ 実施 技能チェック 即時FB 記録
11	OSCEⅠ⑤	OSCEⅠ 実施 技能チェック 即時FB 記録
12	OSCEⅠ⑥	OSCEⅠ 実施 技能チェック 即時FB 記録
13	OSCEⅠ⑦	OSCEⅠ フィードバック

教科書・参考書・資料

作業療法マニュアル75 MTDLP, 日本作業療法士協会
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 第2版補訂版 コミュニケーションと介助・検査測定編, 金原出版
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編, 金原出版
各専門基礎および各専門科目使用教科書・参考文献

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点：100点 出席、臨床実習内容、臨床実習指導者評価、OSCEを総合して判定する。 出席時間要件4/5以上	2年次までの専門基礎科目及び専門科目の単位をすべて取得していることが望ましい。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 臨床評価実習 9単位 360時間 作業療法学科：金谷優志 非常勤講師		作業療法士が関与する領域の臨床実習指導者の下で、その指導と作業療法対象者の協力を受けながら作業療法士に必要とされる評価を経験し、その結果を整理して報告するという一連の技能の実習を行う。 本講義には臨地実習だけでなくOSCEなども含む。 臨地実習：120時間+160時間=280時間 OSCE他：80時間（1.5時間×54コマ）	臨床実習指導者の指導・監督のもとで典型的な障害特性を呈する患者に対して作業療法士としての ①倫理観や基本的態度を身につける ②許容される臨床技能を実践できる ③臨床実習指導者の作業療法の思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができること

	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
14	評価実習Ⅰ前教員面談	実習前教員面談 実習目標等の確認
15	評価実習Ⅰ前HR①	実習オリエンテーション 要項確認 書類点検 壮行会等
16	評価実習Ⅰ前HR②	実習オリエンテーション 要項確認 書類点検 壮行会等
17	評価実習Ⅰ後HR①	実習課題提出 お礼状作成 実習報告会について説明
18	評価実習Ⅰ後HR②	実習課題提出 お礼状作成 実習報告会について説明
19	評価実習Ⅰ後教員面談	実習後教員面談 実習の振り返り
20	評価実習Ⅰ まとめ作業①	実習報告会資料作成（PPT、MTDLP）
21	評価実習Ⅰ まとめ作業②	実習報告会資料作成（PPT、MTDLP）
22	評価実習Ⅰ まとめ作業③	実習報告会資料作成（PPT、MTDLP）
23	疾患理解【佐久間】① 呼吸	実習で関わる疾患に関する理解を深める
24	疾患理解【佐久間】② 糖尿病	実習で関わる疾患に関する理解を深める
25	疾患理解【児玉】① 心臓	実習で関わる疾患に関する理解を深める
26	疾患理解【佐久間】② 超急性期	実習で関わる疾患に関する理解を深める
27	身障分野の臨床テクニック① 【下田】	急性期病院における作業療法
28	身障分野の臨床テクニック② 【下田】	急性期病院における作業療法

教科書・参考書・資料

作業療法マニュアル75 MTDLP, 日本作業療法士協会
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 第2版補訂版 コミュニケーションと介助・検査測定編, 金原出版
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編, 金原出版
各専門基礎および各専門科目使用教科書・参考文献

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点：100点 出席、臨床実習内容、臨床実習指導者評価、OSCEを総合して判定する。 出席時間要件4/5以上	2年次までの専門基礎科目及び専門科目の単位をすべて取得していることが望ましい。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 臨床評価実習 9単位	360時間	作業療法士が関与する領域の臨床実習指導者の下で、その指導と作業療法対象者の協力を受けながら作業療法士に必要とされる評価を経験し、その結果を整理して報告するという一連の技能の実習を行う。 本講義には臨地実習だけでなくOSCEなども含む。 臨地実習：120時間+160時間=280時間 OSCE他：80時間（1.5時間×54コマ）	臨床実習指導者の指導・監督のもとで典型的な障害特性を呈する患者に対して作業療法士としての ①倫理観や基本的態度を身につける ②許容される臨床技能を実践できる ③臨床実習指導者の作業療法の思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができること
作業療法学科：金谷優志 非常勤講師			

	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
29	身障分野の臨床テクニック③ 【下田】	急性期病院における作業療法
30	身障分野の臨床テクニック④ 【下田】	急性期病院における作業療法
31	身障分野の臨床テクニック⑤ 【森】	外科領域における作業療法
32	身障分野の臨床テクニック⑥ 【森】	外科領域における作業療法
33	OSCEⅢ模擬患者①練習	OSCEⅢ 模擬患者を通じて疾患・患者理解を深める
34	OSCEⅢ模擬患者②	OSCEⅢ 模擬患者を通じて疾患・患者理解を深める
35	OSCEⅢ模擬患者③	OSCEⅢ 模擬患者を通じて疾患・患者理解を深める
36	評価実習Ⅱ前教員面談	実習前教員面談 実習目標等の確認
37	評価実習Ⅱ前HR①	実習オリエンテーション 要項確認 書類点検 壮行会等
38	評価実習Ⅱ前HR②	実習オリエンテーション 要項確認 書類点検 壮行会等
39	評価実習Ⅱ後HR①	実習課題提出 お礼状作成 実習報告会について説明
40	評価実習Ⅱ後HR②	実習課題提出 お礼状作成 実習報告会について説明
41	評価実習Ⅱ後教員面談	実習後教員面談 実習の振り返り
42	評価実習Ⅱ まとめ作業①	実習報告会資料作成（PPT、MTDLP）
43	評価実習Ⅱ まとめ作業②	実習報告会資料作成（PPT、MTDLP）

教科書・参考書・資料

作業療法マニュアル75 MTDLP, 日本作業療法士協会
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 第2版補訂版 コミュニケーションと介助・検査測定編, 金原出版
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編, 金原出版
各専門基礎および各専門科目使用教科書・参考文献

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点：100点 出席、臨床実習内容、臨床実習指導者評価、OSCEを総合して判定する。 出席時間要件4/5以上	2年次までの専門基礎科目及び専門科目の単位をすべて取得していることが望ましい。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
専門分野 臨床評価実習 9単位	360時間	作業療法士が関与する領域の臨床実習指導者の下で、その指導と作業療法対象者の協力を受けながら作業療法士に必要とされる評価を経験し、その結果を整理して報告するという一連の技能の実習を行う。 本講義には臨地実習だけでなくOSCEなども含む。 臨地実習：120時間+160時間=280時間 OSCE他：80時間（1.5時間×54コマ）	臨床実習指導者の指導・監督のもとで典型的な障害特性を呈する患者に対して作業療法士としての ①倫理観や基本的態度を身につける ②許容される臨床技能を実践できる ③臨床実習指導者の作業療法の思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができること
作業療法学科：金谷優志 非常勤講師			

	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
44	評価実習Ⅱ まとめ作業③	実習報告会資料作成（PPT、MTDLP）
45	OSCEゼロ 模擬患者練習	模擬患者練習を通じて疾患・障害の理解を深める
46	OSCEゼロ 模擬患者	模擬患者を行うこと、後輩への助言を通じて疾患・障害の理解を深める
47	OSCEゼロ 模擬患者	模擬患者を行うこと、後輩への助言を通じて疾患・障害の理解を深める
48	OSCEⅡ①	OSCEⅡのオリエンテーション
49	OSCEⅡ②	OSCEⅡ 実技練習
50	OSCEⅡ③	OSCEⅡ 実施 技能チェック 即時FB 記録
51	OSCEⅡ④	OSCEⅡ 実施 技能チェック 即時FB 記録
52	OSCEⅡ⑤	OSCEⅡ 実施 技能チェック 即時FB 記録
53	OSCEⅡ⑥	OSCEⅡ 実施 技能チェック 即時FB 記録
54	OSCEⅡ⑦	OSCEⅡ フィードバック

教科書・参考書・資料

作業療法マニュアル75 MTDLP, 日本作業療法士協会
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 第2版補訂版 コミュニケーションと介助・検査測定編, 金原出版
才藤栄一 監：臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編, 金原出版
各専門基礎および各専門科目使用教科書・参考文献

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点：100点 出席、臨床実習内容、臨床実習指導者評価、OSCEを総合して判定する。 出席時間要件4/5以上	2年次までの専門基礎科目及び専門科目の単位をすべて取得していることが望ましい。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
その他		評価実習に必要な評価技法について復習、練習を行い、技術の定着を図る。	評価実習で行う基本的な評価法を適切に行えるようになる。授業を通じて評価実習で必要となることを理解し、実習準備を自ら行うことができる。
臨床評価実習演習Ⅰ (※OT2 評価学 患者役等)			
1単位	15回		
作業療法学科:金谷優志			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
1	身体機能評価 バイタル測定 ROMなど① 【金谷】	バイタルサインの測定に関す技法確認及び練習
2	身体機能評価 バイタル測定 ROMなど② 【金谷】	評価学実習Ⅰ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
3	身体機能評価 バイタル測定 ROMなど③ 【金谷】	評価学実習Ⅰ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
4	身体機能評価 感覚検査など ① 【早川】	感覚検査などに関する技法確認および練習
5	身体機能評価 感覚検査など ② 【早川】	評価学実習Ⅰ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
6	身体機能評価 感覚検査など ③ 【早川】	評価学実習Ⅰ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
7	身体機能評価 MMTなど ① 【兼子】	MMTなどに関する技法確認及び練習
8	身体機能評価 MMTなど ② 【兼子】	評価学実習Ⅰ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
9	身体機能評価 MMTなど ③ 【兼子】	評価学実習Ⅰ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
10	疾患別評価 中枢神経① 【兼子】	技法確認及び練習
11	疾患別評価 中枢神経② 【兼子】	評価学実習Ⅱ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
12	疾患別評価 中枢神経③ 【兼子】	評価学実習Ⅱ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
13	疾患別評価 高次脳機能障害① 【原】	技法確認及び練習
14	疾患別評価 高次脳機能障害② 【原】	評価学実習Ⅱ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。
15	疾患別評価 高次脳機能障害③ 【原】	評価学実習Ⅱ 実技検査に参画し評価技法について理解を深める。

教科書・参考書・資料	
各専門基礎および各専門科目使用教科書・参考文献	
判定基準／割合	**履修上の留意点**
平常点:100点 出席、授業への取り組み等を総合して判定する。	2年次までの専門基礎科目及び専門科目の単位をすべて取得していることが望ましい。

OT3年	通年	講義概要	一般目標
その他		臨床評価実習で経験したことを報告書にまとめ、実習での学びを整理、検討したうえで報告する。また、他学生との意見交換・ディスカッションを通じて学びをさらに深める。	実習の経験を指定書式にまとめることができる。 実習の経験を報告会で発表し、他学生と意見交換・ディスカッションすることができる。
臨床評価実習演習Ⅱ (※実習後セミナー等)			
1単位	15回		
作業療法学科：金谷優志			

回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標
16	評価実習Ⅰ期 報告会準備	報告会資料について担当教員より指導を受け、修正を行う
17	評価実習Ⅰ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
18	評価実習Ⅰ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
19	評価実習Ⅰ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
20	評価実習Ⅰ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
21	評価実習Ⅰ期 報告会	一人20分報告 意見交換　評価実習Ⅰ報告会まとめ
22	評価委実習Ⅰ期 報告会 資料修正作業	報告会をふまえて報告書の修正を行う
23	評価実習Ⅱ期 報告会準備	報告会資料について担当教員より指導を受け、修正を行う
24	評価実習Ⅱ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
25	評価実習Ⅱ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
26	評価実習Ⅱ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
27	評価実習Ⅱ期 報告会	一人20分報告 意見交換 ディスカッション
28	評価実習Ⅱ期 報告会	一人20分報告 意見交換　評価実習Ⅱ報告会まとめ
29	評価実習Ⅱ期 報告会 資料修正作業	報告会をふまえて報告書の修正を行う
30	評価実習 報告会 総括	総括

教科書・参考書・資料
各専門基礎および各専門科目使用教科書・参考文献

判定基準／割合	履修上の留意点
平常点：100点 出席、報告書、報告会での発言等を総合して判定する。	2年次までの専門基礎科目及び専門科目の単位をすべて取得していることが望ましい。